

佐川先生之碑（佐川伊豫之介顕彰碑）

高萩市真高萩1111（茨城県立高萩高等学校南東側斜面）

高萩市役所から北へ約200メートル、滝神社へ行く滝坂を登る途中、茨城県立高萩高等学校の南東側斜面に「佐川先生之碑」と刻まれた高さ2メートルあまり、幅1メートルの記念碑が建っています。

佐川先生というのは、明治前期、高萩地方の子弟の教育に力を尽くした佐川愛廣のことで、愛廣は通称である伊豫之介として名が知られています。

伊豫之介は多賀郡大能村（明治22年に周辺の村々と合併し高岡村、さらに昭和29年に高萩市の一部となる）の神官佐川刑部の子として天保元年（1830）に生まれました。幼くして父を失い、母によって養育されました。初めは青柳村（現、水戸市）の鹿島香取神社の神官小川修理に学び、その後、幕末の水戸学者であり水戸藩彰考館総裁の豊田天功のもとに学びました。

明治6年（1873）になると下手綱村（明治22年に周辺の村々と合併し松岡村、さらに昭和29年に高萩市の一部となる）の土塚神社の神官となりました。このころから高萩地方の子弟の教育に力を注ぎ、長期にわたり社会に貢献するようになりました。人物としては、たいへん真面目で軽はずみな所がない性格であったため、伊豫之介に学ぶ者は、道徳的にも伊豫之介の教えに大きく影響を受けたと伝えられています。

伊豫之介は明治34年（1901）8月に没し、大能の先祖の墓地に葬られました。そして、明治41年（1908）2月に伊豫之介を慕う門弟たちが伊豫之介の業績を称え、かつて神官を務めた滝神社の近くに顕彰碑を建てました。

この顕彰碑の撰文と篆額は衆議院議員で未成年者喫煙禁止法、未成年者飲酒禁止法、水郡線鉄道建設に力を尽くした根本正によるものです。根本正は伊豫之介に学んでいた時期もあることから、撰文等を引き受けたともいわれています。



茨城教育 第八七八号

令和七年六月二十日発行

編集責任者 鹿志村 則男

発行人 鹿志村 則男

発行所 一般社団法人 茨城県教育会

水戸市見和一 一三五六一二

電話 〇二九一三二一―七四七

印刷所 有限会社山田軽印刷所